中高年の学び 掘り起こし

シニア世代向けの講座を充実させる大学が増えている。立教大学（東京・豊島）は50歳以上のための教養講義を拡充。宮崎大学（宮崎市）など合宿形式の公開講座を開く大学もある。少子化で学生の確保が難しくなるなか、中高年層の学びの需要を掘り起こし、若者への好影響も期待する。

立教大 週5日教養講座

宮崎大 理解深める合宿

「立教セカンドステージ大学」には元気なシニアが集まる（東京都豊島区）

「日本の現代美術の流れを知るためには、東京国立近代美術館の『高松次郎ミステリーズ』に行くのがおすすめです」。1月の平日、立教大学池袋キャンパス（東京・豊島）でひときわ熱気のある講義が行われていた。千石英世・立教大名誉教授の言葉に対し、真剣にメモを取っていたのは50～70歳代の学生たちだ。

平均年齢62歳

立教大が50歳以上を対象に開く生涯学習機関「立教セカンドステージ大学」。「現代美術に親しむ」「生命の多様性」といった教養講座を週5日開く。学費は入学金込みで40万円。70人の募集に対し毎年100人程度の応募がある。平均年齢は62歳で、群馬県や茨城県から通学する人も。2015年度からは専任講師の人数を増やし、講義のラインアップをさらに充実させる。

「人生の中で最も濃い1年間」と笑顔で語るのは木村栄作さん（67）。金融機関を経て中小企業の社長を務めたあと、幅広い教養を学びたいと入学した。「団塊世代は出世競争に追われてばかり。自分のやりたいことをもう一度見つめ直したかった」。モチベーションは高く、若い学生との合同授業では必ず最前列に座って積極的に発言するという。

講師1人が7～8人を見るゼミ形式で友達づくりを支援。毎年夏には八ケ岳のふもとの山荘でゼミ合宿を開催している。木村さんはここでも率先して合宿委員長を務め、キャンプファイアやハイキングで親睦を深めた。

ただ学ぶだけでなく、修了後に何をするか考えさせるのも特長だ。同窓会やセミナーを頻繁に開き、「第二の人生」をサポートする。農業の楽しさと将来性に目覚めた木村さんは、他の受講生と「有機農業研究会」を発足。今後は「仲間と日本一の有機農場をつくるのが目標」と目を輝かせる。

文部科学省の学校基本調査によると、大学院に在籍する61歳以上の人数は14年度で422人。大学院進学者が減っている一方、中高年は増えている。定年退職を迎えて資金と時間に余裕がある団塊世代が、「長年の夢をかなえたい」「若い世代と交流したい」といった理由で大学の門をたたいている。

東京農業大学は園芸・造園の知識を提供する（東京都世田谷区）

奨学金を給付

宮崎大学の公開講座は合宿形式をとる。2泊3日で中高年の食と健康について学ぶコースでは、農学や医学の教授らが参加。健康食品の試食会や足腰を鍛えるウオーキング教室などを開催する。同じ釜の飯を食うことで参加者と講師の距離を縮め、より深く理解してもらうのが狙いだ。

静岡産業大学（静岡県磐田市）は、シニア学生が自身の知恵や経験を若者に伝えてくれる効果を期待する。55歳以上の学生が部活やサークルで指導的役割を担ったり、留学生との交流活動や地域貢献のボランティアなどをしたりした場合、年20万～40万円の奨学金を給付する。

日本でいち早く「シニア大学院」制度を設けたのは東京経済大学（東京都国分寺市）。52歳以上が対象で、筆記試験はなく小論文と口述試験などで選考する。経済学や経営学といったビジネス系の学問が中心で、企業での経験を学問として捉えたい人の学び直しの場となっている。

ご意見・情報は電子メール、daigaku@nikkei.co.jpへお寄せください。

中高年向けの講義は多彩だ

大学名	内容
早稲田大（東京）	約1800の教養講座をそろえる。海外留学プログラムも用意し、過去には80歳代の参加者も
東京農業大（東京）	都内の農場を使い造園や園芸の実技を学ぶ。都立公園のガイドなど第二の人生に生かす
城西国際大（千葉）	体力づくりの実技、生活習慣や薬の知識などを学ぶ。病気や介護の予防に努める
同朋大（愛知）	「親鸞（しんらん）と現代」など、仏教にまつわる公開講座を年に数十回開催
奈良県立大（奈良）	高校の国語や日本史の教科書をもとにした講義で、基礎的な教養を学び直す
鹿屋体育大（鹿児島）	寝たきりにならないよう、特別な器具を使わずに筋力を鍛える「貯筋運動」を指導

余った教室・講堂 大学が有効活用

シニア、若者を刺激

大学がシニア世代の参加を促す背景には、少子化による受験者数減で多様な人材を受け入れたい思惑がある。「人口が減り、学生の確保はどの大学も差し迫った課題」。情報サイト「オールアバウト」で「社会人の大学・大学院」ガイドを務める西島美保さんはこう語る。中高年向けの講義は余った教室や講堂を有効活用できるといったメリットもある。

どのようなシニアが参加しているのだろうか。「現役中も常に新しい知識を学び続けてきた人が多い」と語るのは、リクルートライフスタイル（東京・千代田）の専門誌「社会人&学生のための大学・大学院選び」編集長・乾喜一郎さん。もともと学ぶことが好きで、働きながら新しい知識を吸収し続けてきた人が多いという。

向上意識の高いシニア層は、大学にとっても大歓迎だ。「年配者と接することが少ない若者にとって、大学でシニアと触れ合う機会は貴重だ」（立教大）。シニア世代が勉強に励む姿を見て若い学生が好影響を受け、キャンパスの活性化につながることを期待している。（地方部　新井悠真）

キャンパ

前面と左右のきなスクリーれ、真ん中に体つ。スクリーン1車線の道路道、次々とやっ動車などのCGユーターグラス）映像が映る。左右を確認みすると画面が横断を疑似体験安全確認が不十「ドーン」という き画面が赤く染

この装置は交習に利用する歩ミュレーター「ョーズ君」。秋田学院工学資源学水戸部一孝教授電子部品メーカピーアイ（秋田市）が2007年